



## 湾岸・アラビア半島地域ニュース

### イラン：イランの核問題・ラリジャニ国会議長の発言

(1月26日付現地各紙)

1月25日、ラリジャニ国家議長は、国会開会時のスピーチにて、2月初旬にベルリンで開催予定のイラン核問題に関する P5 + 1 会合について、オバマ新政権について言及している。概要以下の通り。

1. イラン核問題に関する P5 + 1 会合における米国の立場を通し、オバマ新大統領が選挙運動にて公約に掲げていた「変化」が「現実」になるかどうかを試されるであろう。現在までの米国の立場に見られる変化は、ブッシュ前政権時代から続いていた悪い状況から抜け出す為の新政権の尽力の結果である。
2. 一方、イスラエルによるガザ攻撃に対する米国新政権の沈黙と、シオニスト政権に対する実質的支援は、オバマ新大統領の「変化」理論に対して大きな疑問を生じさせた。オバマ新大統領は、最初のスピーチで抑圧されたパレスチナ市民に対する保護ではなく、イスラエルの安全保障に対する米国の責任についてスピーチした。我々は、P5 + 1 の枠組みにおける米国の動き及び中東地域・イランに関する今後の米国の行動を注視するであろう。